

令和8年3月19日

白老町議会  
議長 小 西 秀 延 様

総務文教常任委員会  
委員長 貳 又 聖 規

所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

- 1 調査事項 (1) 常任委員会  
白老仙台藩陣屋跡について  
(2) 分科会  
仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進協議会との懇談
- 2 調査の方法 (1) 常任委員会 事務調査  
(2) 分科会 懇談
- 3 調査日程 (1) 常任委員会  
令和8年1月22日(木)  
2月4日(水)  
3月11日(水)  
(2) 分科会  
令和8年2月4日(水)
- 4 出席委員  
委員長 貳 又 聖 規 副委員長 森 山 秀 晃  
委員 長谷川 かおり 委員 佐 藤 雄 大  
委員 前 田 博 之 委員 広 地 紀 彰

- 5 説明のために出席した者の職・氏名  
教育部長 富川英孝 教育課長 森 誠 一  
教育課文化財係長 松山誠司 教育課文化財係主任 平野敦史

- 6 分科会懇談のため出席した者の職・氏名  
仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進協議会  
会長 川西政幸様  
副会長 岩城達己様  
副会長 森 誠一様  
事務局長 松本曜子様  
監査 細尾 淳様  
監査 松山誠司様  
会員 小澤清陽様

- 7 職務のために出席した者の職・氏名  
事務局長 本間弘樹 主 幹 小山内 恵

## 8 調査結果

本委員会では、史跡白老仙台藩陣屋跡整備基本計画（案）の概要、入館者の推移、ウポポイとの連携状況、仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進協議会の取組等、白老仙台藩陣屋跡の活用の在り方について調査を実施した。

### (1) 現状と課題

現在、令和8年度から17年度までの10年間で第2次整備期間とする整備基本計画を策定中であり、エントランス地区及びガイダンス地区を重点整備区域としている。

#### ① 第2次整備計画の推進に関する課題

- ・発掘調査が継続中であり未解明部分が残っていること
  - ・大手御門立体展示の老朽化及び位置の再検証が必要な状況にあること
  - ・樹木の繁茂により史跡の視認性が低下していること
  - ・周遊路や案内板の老朽化が進んでいること
- など、整備と保存の両立に向けた課題がある。

#### ② バリアフリー及び導線整備の課題

- ・エントランス地区の多目的スペース（駐車機能を含む区域）は不陸があり、利用者にとって利便性が十分とは言えない状況にあること
- ・史跡内部は未舗装区間が多く、車椅子利用者の観覧範囲が限定的であること

・駐車場所と歩行動線の整理が十分とは言えないこと  
史跡の本質的価値を損なわずに、どこまでバリアフリー化を図るかが課題となっている。

③ 堀・神社等の保存管理の課題

・堀への給水は現在停止しており水景の再現がされていないこと  
・土留め等の老朽化が見受けられること  
・塩釜神社及び愛宕神社の老朽化が進行しているが、改修に向けて文化財補助制度との整理が必要であること  
日常的な維持管理と将来的な整備方針の明確化が求められる。

④ 入館者数の減少

元陣屋資料館の入館者数は減少傾向にあり、令和7年度は前年度比でさらに減少が見込まれている。

・特別企画展の未実施  
・発掘調査対応による事業制限  
・周知PR不足

などが要因として考えられる。

入館者1万人回復を目標とした取組の強化が課題である。

⑤ ウポポイとの連携

・年間パスポートや半券提示による割引制度  
・所蔵資料の貸与

にとどまっており、回遊性向上に十分結びついていない状況にある。より具体的な連携策の検討が必要である。

⑥ 仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進協議会の取組

令和7年6月に設立された活性化推進協議会では、

・ポロトミンタラでのPR  
・甲冑展示  
・周遊ガイド事業  
・ガイド人材育成

等を実施しているが、認知度向上や来場者増加への効果検証は今後の課題である。

⑦ デジタル技術の活用

AR・MR等のデジタル技術の導入可能性が示されているが、

- ・発掘調査結果によるコンテンツ化の検討
- ・導入コスト
- ・維持管理体制

を踏まえた慎重な検討が必要である。

## (2) 委員の意見

### ①史的価値の再認識

- ・歴史は原点であり、その理解なくして活用は語れない。「北に生きる武士団」等の歴史資料に町民が触れ学べる機会を設けるべきである。
- ・四季折々の自然環境や赤松等の歴史資源も含め、総合的な活用を検討すべきである。
- ・白老町の長いアイヌ文化の歴史とともに、仙台藩による開拓と町の礎の形成は、本町のアイデンティティを構成する重要な歴史的要素である。
- ・陣屋跡は郷土愛にとどまらず、町のために何かをしたいと考える人材を育てる「シビックプライド醸成の場」としての役割を有している。
- ・子供たちを含め、町民全体に陣屋や町の歴史を伝える発信強化が必要である。

### ②発信力強化と体験型施策

- ・甲冑着用体験など体験型コンテンツを活用したPR、SNSやハッシュタグ等による発信を強化すべきである。
- ・来訪者の属性を整理し、インバウンド等も含めた戦略構築が必要である。
- ・デジタル技術（AR等）の活用も視野に入れるべきである。
- ・若年層に届く発信として、漫画等の活用も検討すべきである。

### ③ウポポイとの連携・広域的視点

- ・ウポポイのみならず、陣屋跡も観光資源としてもっと情報発信すべきである。
- ・ウポポイと陣屋資料館の共通パスポート導入など、回遊動線を強化すべきである。
- ・仙台市及び伊達政宗公生誕を意識した広域歴史戦略の視点を持つべきである。

### ④持続可能な運営体制

- ・シビックプライドの醸成、観光やまちの活性化、ウポポイとの連携、人材育成の場など陣屋の多面的な魅力の再認識が必要である。
- ・企画運営、人材確保、魅力発信、連携、財源確保など支援が必要である。

- ・高校生ガイド等含め、文化観光として「稼ぐ仕組み」を構築すべきである。
- ・バリアフリー動線等を整備計画に反映すべきである。
- ・現場の声を丁寧に聞きながら整備を進める必要がある。
- ・子供ガイドの育成などガイドセンターとの連携強化が重要である。
- ・観光と教育部局の連携強化と文化観光推進法に基づく拠点認定の可能性を検討すべきである。

### (3) まとめ（提言）

本委員会は、現状と課題及び委員の意見並びに分科会における懇談を踏まえ、次の事項について検討・推進することを提言する。

#### ①文化観光拠点としての戦略的推進体制の整備

ウポポイというナショナルセンターを有する本町においては、史跡白老仙台藩陣屋跡をはじめとする歴史文化資源を総合的に位置づけ、文化観光推進法に基づく拠点認定の可能性について、早期に関係部局横断的に検討を開始すべきである。

当該制度は単なる補助制度の活用にとどまらず、本町の持続的発展を見据えた戦略的政策手段であることから、推進体制の整備を求める。

#### ②歴史的価値の再編集とシビックプライドの醸成

アイヌ文化と仙台藩による歴史的重層性を本町のアイデンティティとして再整理し、「北に生きる武士団」等の歴史資料の活用を含め、町民が誇りを持てる環境づくりを推進すること。

#### ③回遊性向上と体験型施策の強化

ウポポイとの連携を深化させ、共通パスポート導入や、白老駅及びポロトミンタラを含む動線設計の具体化を検討すること。また甲冑体験やAR等のデジタル技術の活用を含め、来訪者の理解と満足度向上を図ること。

#### ④持続可能な運営体制の確立

子供を含むガイド人材育成の制度的位置づけを図るとともに、おもてなしガイドセンター等との連携強化を通じ、文化資源を活用した持続可能な運営モデルの構築を検討すること。

### (4) 総務文教分科会

総務文教分科会は、2月4日に仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進協議会との懇談会を実施した。なお、その内容については別紙「活動報告書」のとおりである。

## 総務文教分科会の活動報告書

令和 8 年 2 月 1 3 日

総務文教常任委員会

委員長 貳又 聖規 様

総務文教分科会

主査 森山 秀晃

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名： 仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進協議会 (参加者 7 名)

日程・会場	令和 8 年 2 月 4 日 午前 1 0 時 0 0 分 ~ 午前 1 1 時 3 7 分 議会第 1 委員会室
懇談テーマ	白老仙台藩陣屋跡について 協議会の活動の現状や課題、今後の展望等について
出席委員名	主査 森山 秀晃 副主査 貳又 聖規 委員 佐藤 雄大 委員 広地 紀彰 委員 長谷川 かおり 委員 前田 博之
意見・要望事項	下記のとおり
活動報告 (処理・対応含)	仙台藩白老元陣屋活用地域活性化推進協議会の活動の現状や課題、今後の展望等について懇談を行った。 『現状』 ・白老町民であっても「元陣屋」の名称の意味(元締め之意)を誤解している例があるなど、歴史的価値が十分に浸透していない。【認知度の低さ】 ・昭和 60 年の大河ドラマブーム時には来場者が年間 1 万

2,000人を超えていたが、近年は8,000人台にとどまっている。【入館者数の低迷】

- ・抹茶の提供や解説活動などの経費は、「友の会」の持ち出しやボランティアに支えられており、行政からの直接的な資金援助はない。【運営のボランティア依存】
- ・資料館は建物が古く、敷地内の砂利道等がバリアフリーに対応できていない。また、当時の建物が現存しないため、視覚的な訴求力に欠ける面がある。【ハード面の制約】

#### 『課題』

- ・ガイドの高齢化が進む一方、白老を学んだ優秀な若者が町外へ就職してしまう「受け皿」のなさが課題となっている。【人材の不足と流出】
- ・駅から陣屋へが分かりにくく、来訪者が迷うケースが見受けられる。【誘導の不備】
- ・歴史的文化と観光を結びつける「接着剤」としての機能が弱く、周辺施設(ウポポイ、ポロトミンタラ等)との連携がまだ点に留まっている。【PR不足】

#### 『意見』

- ・インバウンド客に非常に好評な「甲冑着用体験」や「抹茶の点前」など、日本文化を肌で感じられるアクティビティを継続・発展させるべきである。【体験型コンテンツの強化】
- ・建物がない現状を補うため、AR(拡張現実)やVR(仮想現実)、あるいは安価な視覚パネル等を導入し、当時の風景を再現する工夫が求められる。【デジタル技術等の活用】
- ・高校生や小学生のガイドが活躍しており、彼らの意欲

を町独自のアイデンティティとして育てるべき。【若手ガイドの育成】

『要望』

- ・議員の立場からも、交流の場などで積極的に陣屋のPRを行ってほしい。【PR活動】
- ・ボランティア活動がスムーズに継続できるよう、消耗品や活動費への支援、多言語対応や解説動画の刷新のための予算を確保してほしい。【物的・資金的支援】
- ・第2次整備計画において、車いすでも容易に走行できる道づくりなどユニバーサルデザインの視点を取り入れてほしい。【インフラ整備】

○まとめ

白老町の歴史的原点である「仙台藩白老元陣屋」を単なる歴史保存の場から、地域活性化の核となる観光資源へと昇華させるための具体的な議論が交わされた。

中でも、「文化と観光の融合」が重要との見解が出た。ウポポイというナショナルセンターが近隣にある好機を生かし、いかにその来場者を陣屋へ誘い込むか(回遊性の向上)が急務である。そのためには、デジタル技術を用いた「見える化」や、既に実績のある「甲冑着用体験」のような体験価値の提供が不可欠となる。

また、「次世代への承継」も重視しなければならない。小中高生がガイドとして活躍し、来訪者から感謝されるという成功体験は、シビックプライド(郷土愛)の醸成に直結する。こうした若者が町に残り、活躍できるような就職先の確保や支援体制の構築は、単なる観光施策を超えた、町の存続にかかわる重要な戦略になると考えられ

る。

　　今後は、第2次整備計画の策定を見据え、行政・議会・協議会が一体となり、ハード(施設整備)とソフト(人材・コンテンツ)の両面で「白老のアイデンティティ」となる仙台藩白老元陣屋を整備し、「シビックプライド」の醸成へつなげていくことが求められる。